
落下中

よわむし

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

落下中

【Nコード】

N9277P

【作者名】

よわむし

【あらすじ】

サクッと読めるショートショートです。

3月1日、午後10時27分。

僕は今落下中だ。

家の屋根から飛び降りたからだ。

どうしてこんなことになってしまったんだろう。

僕はもともと物忘れがひどかった。

学生時代も筆記用具を忘れることはもちろん、カバンごと忘れて学校に行ったことも数え切れない。

友達の顔や名前が思い出せないこともしょっちゅうで、クラスメイトからよく笑われたりしていた。

なんとか仕事についてからも、やっぱり物忘れがひどくて、よく上司に怒られたっけ。

でも今回は別格だ。

明日、仕事で重要な取引が行われるのだ。

社運を賭け、1年半と7億円をかけたプロジェクトの取引だ。

その取引の為に、相手先に届けなければならぬ書類の期日が、今日の夕方5時までだったことをすっかり忘れていたのだ。絶対に遅れてはならない書類だった。

その書類を絶対届けなくてはならない為、

今日は会社に来なくていいぞと言われていた。

どこをどう思ったのか、今朝起きたときにはすっかり書類のことを忘れて、

会社に来なくていいことだけを覚えてしまっていた。

遅めの朝飯を食い、布団を庭に干し、部屋の片づけをし、夕方までのんびりし、買い物に出かけ、夕食を作った。

軽く晩酌をしていたとき、今日一日放り投げていた携帯に、会社から留守録が入っていることに気付いて再生した。

「梶田くく！！！！」

上司の怒鳴り声で酔いが一気に冷めた。

その瞬間に、書類を届けてないことに気付いたからだ。手から携帯が滑り落ち、後のメッセージは聞けていない。

きっと取引はご破算になるだろう。

そうすると間違いなくうちの会社は潰れる。

僕のせいで、会社の二百人近い人間が路頭に迷うことになる。

それから3時間、悩みに悩んで、気付くと家の屋根に登っていた。

結婚もしていないし、両親はこの家を僕に残して早くに死んだ。

一人暮らしに3階建ての家は広すぎたが、

こうなっては飛び降りるには丁度いい高さだと思う。

膝がガクガク震えた。何度も飛ぼうとしたが、

足が自分の体じゃないみたいになく動かなかった。

目を開けていると怖いから、目を閉じたまま屋根の端に立ち、

そのままゆっくり、倒れるように飛び降りた。

そして、今、僕は落下している。

走馬灯というやつだろうか。

今までの人生が高速で頭を駆け抜けていく。

父さん。母さん。ごめん。

もうすぐそっちに行くから。

31年の短い人生だった。

いや、あと5日程で誕生日を迎えるから、
約32年の人生か。

ふふふ。そういえば、僕が4の倍数の年齢になるときは、
うるう年になることを忘れて、誕生日をよく間違えたっけ。

自分の誕生日を間違えるなんてって、よく親に呆れられたもんだ。

…待てよ？

今年はうるう年じゃないか！

今日は3月1日じゃなくて、もしかして2月29日じゃないのか？
書類を届ける期日は3月1日までだったから、
もしかしてまだ間に合うはずだったのか？

では今日は、会社に行かなくていい日ではなく、
普通の出勤日だったのか？

なんてことだ。

じゃあ職場からの電話は、書類を届けてないから電話が来たんじゃない、今日無断欠勤したことに對しての電話だったんだ。

気付いてしまったがもうどうしようもない。

僕の体は宙に浮き、まさに今落下中なのだ。

ああ。最後の最後まで、

僕の人生は忘れ物ばかりだ。

なんて情けない死に方だろう。

きっともうすぐ地面に激突し、僕は死ぬんだろう。
ほら…もう…。

ドーン！！

体にすさまじい衝撃が…。

あれ？　言うほどでもない…。

おそるおそる目を開けると、
目の前は真っ白だった。

もう天国に着いたんだろうか。
思ったより苦しくなかったなあ。

一瞬そう思ったがどうもおかしい。

近所を走る車の音が聞こえるし、なにより、
心臓はバクバク言って、しっかり脈打っている。
僕は慌てて起き上がった。

真っ白だったのは、天国じゃなくて、
昼間に庭に干して、そのまま仕舞い忘れていた布団だった。

(後書き)

はつきり言って僕も忘れ物が多いです。
いろいろと抜けてます。

この話は全然他人事じゃなく、
未来の僕のことかも知れません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9277p/>

落下中

2011年1月9日06時36分発行